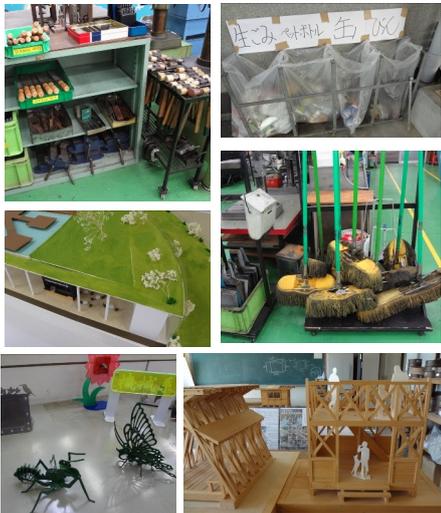


フィリピンの子どもたちが、学ぶことと働くことに希望を持てるように…

2014年8月～2015年3月のプロジェクト活動および高等部設置準備状況



フィリピン国技術教育モデル校支援プロジェクトが開始してから、1年が経過しました。本ニュースレターでは、プロジェクト第1年次の後半（2014年8月～2015年3月）のプロジェクト活動および高等部設置準備状況についてご報告いたします。

フィリピン教育省では、2016年度の高等部全面設置に向けた準備を進めています。2014年9月には、各学校の共通科目と専門科目の授業時間数や教育内容を確認するためのワークショップを開催しました。

教育省の地方事務所では、中央からの指示を受けて、当該地域の学校のキャパシティを調査しました。具体的には、各学校の物理的環境や人的資源、生徒の指向を調

査し、2016年度に高等部を設置できる学校数、受け入れ可能な生徒数を算出しました。

2016年度の新11年生すべてを公立学校で受け入れることは困難であるため、教育省はパウチャーを発行し、一部の生徒を私立学校で受け入れてもらうことも計画しています。

教育省では現在、各学校の産業連携担当者向けハンドブック作成を行っています。

目次：

パイロット校の活動： - Trade Fair/Job Fair - 教育活動を改善する取り組み - 他の学校への経験共有	2
モデル校の紹介： - 工業系の学校 - 農業系の学校 - 水産系の学校	3
日本の技術教育	4
今後の予定	4

フィリピン国技術教育モデル校支援プロジェクト

フィリピンの基礎教育期間は、初等教育6年、中等教育4年の10年間です。そのため、高等教育へ進学しない子どもたちは、16歳で中等教育を修了後、法的に就労が可能となる18歳まで待機する必要性がありました。一方、産業界からは、中等教育の質の向上が求められてきました。

このような状況を受け、フィリピン政府は「K to 12（幼稚園から12年生まで）」と呼ばれる改革を開始し、2016年度から1年間の就学前教育を義務化すると共に、2年間の高等部を設置することを決定しました。

2014年2月、国際協力機構（JICA）は、K to 12のうち高等部における技術職業教育を支援する「フィリピン国技術教育モデル校支援プロジェクト」を開始しました。

フィリピン教育省のK to 12モデルリング事業対象校への支援を通して、学校と産業界/企業間の連携を強化する仕組みを構築することが目的です。プロジェクトは2017年6月まで続きます。

パイロット校の活動

プロジェクトの活動は、4校の技術職業高校から始まりました。マニラのQuezon CityにあるDon Alejandro Roces Sr. Science and Technology High School (DARSSTHS)、Pasig CityのRizal Experimental Station and Pilot School of Cottage Industries (RESPSCI)、ラグナ州San Pedro CityのSan Pedro Relocation Center National High School (SPRCNHS)、そしてセブ島のMandaue CityにあるSubangdaku Technical Vocational School (STVS)です。これらの学校の産業界、企業との連携構築にかかる活動をご紹介します。

Trade Fair/Job Fair



SPRCNHSのJob Fairで掲示された求人票

STVSは、2014年8月28日、日ごろの教育活動をコミュニティや保護者に紹介するTrade Fairを開催しました。生徒の企業実習等に協力してくださっている企業に加え、プロジェクト活動を通じ卒業生の能力と産業界のニーズのギャップについて聞き取りを行った企業もご招待したところ、6社から出席者があり

ました。STVSではこのような機会を通じ、同校の技術職業教育を産業界に紹介するよう努めています。

SPRCNHSでも2015年2月20日にJob Fairが開催され、生徒が学科ごとに学習の成果を発表しました。合わせて、人材紹介会社が求人情報を提供したり、応募者の募集を行いました。

教育活動を改善する取り組み

DARSSTHSおよびRESPSCIの高等部には、飲食サービスコースが設置されています。同コースの生徒が飲食業をより身近に感じられるよう、8月26日、各校25名を対象にコーヒー教室を開催しました。UCC Ueshima Coffee Philippines Inc.から講師2人をお迎えし、ペーパードリップ式のコーヒーの入れ方を教えていただきました。

STVSは、千葉県立市川工業高等学校との交流プログラムを開始しました。第1回目のプログラム(2015年1月28日)では、スカイ

プを通じて、両校の生徒が学校や学習内容について紹介し合いました。NEC Telecom Software Philippines, Inc.からも支援者が訪れ、インターネット接続に関して助言を行いました。セブの企業への聞き取りによれば、STVSの生徒は自分の意見をはっきり述べたり、英語で話をするのが得意ではありません。STVSでは、交流プログラムを通じて、生徒が自信を持って発言できるようになったり、英語でのコミュニケーションを楽しめるようになることを期待しています。



UCC Ueshima Coffee Philippines Inc.の協力を受けて実施されたコーヒー教室

他の学校への経験共有

11月16~21日、フィリピン教育省は、技術職業学校の産業連携コーディネータの能力向上と産業連携ガイドライン作成を目的にワークショップを開催しました。20校から合計41人が参加しました。ワークショップではパイロット校4校の産業連携コーディネータが他校からの参加者に経験を共有した他、SPRCNHSの調整により参加者が企業視察(7社)を行いました。

ロット校の校長や産業連携コーディネータが、各校の以下のような取り組みを紹介しました。

- ・企業へアプローチする際には、地方自治体の支援を得ることが有効である。
- ・実習期間中の生徒の安全を確保するため、保険に加入するよう保護者を説得している。
- ・企業実習に先立ち、生徒を対象に丁寧なオリエンテーションを実施することが重要である。
- ・協力企業の関係者を卒業式に招待するなど、日ごろから企業との連携強化に努めている。

2015年2月12~14日には、全国の技術職業教育校280校の校長を対象に2014年次会議が開催されました。同会議においても、パイ

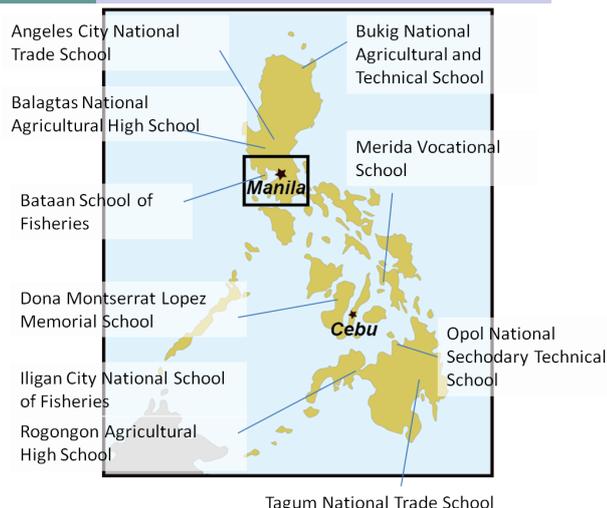


STVSのスカイプ会議の様子

モデル校の紹介

本プロジェクトでは、フィリピン教育省のモデリング事業対象校のうち、技術職業教育を提供する10校をモデル校としています。右の地図に示した通り、ルソン島に4校、ビサヤ地域に2校、ミンダナオ島に4校が位置しています。

プロジェクト第2年次（2015年5月～2016年4月）にモデル校での活動を開始するのに先立ち、プロジェクト・チームが各学校と当該地域の教育省地方事務所を訪問し、技術職業教育にかかる高等部設置のモデル事業実施状況を確認しました。高等部設置に向けた共通する課題として、教員数および技能の不足、施設設備の不足、現在は任意での進学であるため中退率の高さが挙げられます。学校ごとの現状・取り組みは以下に示すとおりです。



工業系の学校

モデル校のうち、工業系の学校は5校です。Angeles City National Trade SchoolやTagum National Trade School、Doña Montserrat Lopez Memorial Schoolが大都市の中心部近くに位置する一方、Opol National Secondary Technical SchoolとMerida Vocational Schoolは地方都市の郊外に位置しています。学校の立地は生徒の企業実習先、ひいては就職に影響

します。例えば、Opol National Secondary Technical Schoolでは、連携を構築し得る地域の企業数が限られていることが課題となっています。

なお、Merida Vocational Schoolは、2013年にフィリピンを襲った台風ヨランダの被害を受け、校舎を修復中です。



Opol National Secondary Technical School

農業系の学校

モデル校のうち3校が農業系の学校です。Balagtas National Agricultural High Schoolは都市近郊の学校ですが、Bukig National Agricultural Technical SchoolとRogongon Agricultural High Schoolは地方都市からも離れた遠隔地の学校です。

遠隔地の学校では、農業関連産業での実習機会を得ることが難しいのも課題です。Bukig National Ag-

ricultural Technical Schoolでは、製菓製パンコースで作ったケーキや菓子パンなどを販売し、収益を実習時の交通費等に充てるという取り組みを行っています。Rogongon Agricultural High Schoolでは、高等部の生徒1人あたり1 haを実習用農園として耕すよう指導しました。当該校は生徒の生産活動を支援し、農業が持続可能な生計手段であることをコミュニティに示す役割も担っています。



Rogongon Agricultural High School

水産系の学校

水産系の学校は、Bataan School FisheriesとIligan City National School of Fisheriesの2校です。

両校に共通するのは、水産以外のコース設置にも積極的である点です。Bataan School Fisheriesでは食品加工コースと、地元の工業団

地で高いニーズを有する縫製コースを設置しています。Iligan City National School of Fisheriesでも、食品加工コースが設置されています。また、水産関係のコースにおいて、溶接技術の習得と資格取得を促進しています。



Iligan City National School of Fisheries



日本の工業高校の進路指導室。ハローワークを通じて届けられた求人票が企業の情報と共にファイリングされている。

日本の公立高等学校における「就職支援員」

日本では、就職支援も高等学校、とりわけ専門高校の重要な役割の一つです。そのため、現在、約9割の都道府県教育委員会には、「就職支援員」が配置され、高等学校卒業生の就職の支援を行っています。

「就職支援員」の主な役割は、(1) 求人先の開拓、(2) 生徒や保護者を対象とした進路相談、(3) 面接指導、(4) 社会人としてのマナーなどの指導です。就職支援員は必ずしも特定の学校に常勤職員として配置される訳ではなく、非常勤職員として複数の学校を受け持っています。

就職支援員の配置は10年ほど前に始まりました。その効果の検証は始まったばかりではありますが、就職支援員が配置されている学校では就職内定率が高いという結果が出ています。

プロジェクト事務所

c/o Technical-Vocational Unit
Room M413, Mabini Building, DepED Complex, Meralco Ave., Pasig City, Philippines
Tel: 02-470-6628 / 0928-232-6191

E-mail: jicatechvocshs@yahoo.com

Website: <http://www.jica.go.jp/project/philippines/008/index.html>

Facebook: <https://www.facebook.com/jicaprojecttechvocshsphilippines>

日本の技術教育

2014年10月19日～11月1日、フィリピンの技術職業教育を改善するための示唆を得ることを目的に日本の技術教育を紹介する本邦研修を実施しました。フィリピン教育省職員およびパイロット校校長、教員ら11名が参加しました。

研修第1週目は、日本の技術職業教育の概要についての講義と東京都および千葉県の工業高校を視察する機会を設けました。第2週目は地方の状況を把握してもらうため高知県の取り組みを紹介した後、フィリピンの技術職業教育改善のための方策を検討しました。

同研修の参加者が、参考にしたいと特に挙げていた点を以下に紹介します。

【教育内容について】

- ・授業前に教員が生徒の出席を確認し、ユニフォームを正しく着用しているかチェックを行っている。
- ・実習では教員1人あたりが指導する生徒数が少なく、丁寧な指導が可能である。
- ・生徒自身が機械や機材の整理整頓、実習室の清掃を行っている。
- ・ユニフォームや防具の適切な着用や機械の適切な使用についての指導、保険への加入等を通じ、生徒の安全が確保されている。

【教員について】

- ・企業に勤めている人、退職した人を講師として活用しているため、より実践的な指導が可能である。

【進路指導について】

- ・小学生からのキャリア教育、実践的な実習、段階的な企業視察・イ

ンターンシップ、面接練習等、就職を念頭においた指導が行われている。

- ・高校が生徒の進路指導、就職支援を行っている。

【産業との連携について】

- ・自治体が技術職業教育を推進しており、産業界との連携構築を支援している。

【施設・設備について】

- ・機械の台数が十分であり、生徒ひとりひとりが機械に触ることができる。

【防災に関すること】

- ・土木や建築学科の教育内容には、防災に関する内容が含まれている。
- ・日本の学校では防災訓練が行われている。
- ・学校が地域の避難所となっている。

パイロット校の中には、早速、実習中の保険への加入を生徒に働きかけるなど、本邦研修での学びを活用する学校も出てきています。



日本の工業高校視察の様子。

今後の予定

2015年5月よりプロジェクトは第2年次（2015年5月～2016年4月）に入ります。

パイロット校とは引き続き、産業界との連携の促進、卒業生の就職支援の面で協働していきます。さらに、モデル校の技術職業教育の改善活動も開始します。

10月/11月には、第2回本邦研修を実施予定です。昨年の本邦研修では主に日本の工業高校の取り組みを紹介しましたが、今回は農業高校、水産高校の取り組みについても紹介することを計画しています。